

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105487
法人名	医療法人 福井整形外科・麻酔科
事業所名	グループホーム杜の里
所在地	松山市鷹子町185番地1
自己評価作成日	平成27年9月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの基本理念である「あせらず あわてず あきらめず」「手の届く 目の届く 心の届く 生活を支援します」を大切に、職員が一丸となって利用者様と真の家族のような信頼関係が築けるように日々過ごしています。協力医療機関が母体である為に、日常的な健康管理に対してのバックアップも安心でき、最後までお付き合いができるように介護技術の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天気の良い日は散歩して近所の方とあいさつを交わしたり、時には事業所でできた野菜をおすそ分けすることも。地域の敬老会や盆踊りに参加している。夏休みには、小学生のラジオ体操場所として事業所の敷地を提供しており、時には利用者も子供たちと一緒に体操をしている。引率の保護者が、自主的に庭の草引きをしてくれたこともあった。5月の「杜の里バザー」の際には、事業所内を解放し、掲示した利用者の暮らしの様子やイベント時の写真を見もらった。
毎月、元職場の同僚の友人が迎えに来てくれて、外食することを7年間続けている利用者がいる。友人は、帰りに来月迎えに来る日時を伝えて帰られるため、以前は、数日前からご本人に伝えて楽しみに待てるよう支援していたが、現在は、混乱する様子が見られるため、当日伝えて出かける準備の手伝いをしている。利用者のほとんどの方が母体医療機関へ週二回リハビリに通っており、院内では、顔馴染みになった患者さんから「お元気ですか」「調子はどうですか」等と声をかけてもらう。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム杜の里

(ユニット名) ふきのとう

記入者(管理者)
氏名 中村健二郎

評価完了日 平成27年 9月 23日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者様を第一に考え支援していけるように努めているが、業務をこなすことに精一杯になり職員主体となる事も多い。お互いにもっと協力し合い連携の密度を高めていかなければならないと思う。 (外部評価) 開設当初、職員会で話し合っ「あせらず・あわてず・あきらめず(三つのあ)」「手の届く・目の届く・心の届く生活を支えます」と理念をつくっており、管理者は「利用者の笑顔を引き出すために、まずは、職員自身が笑顔でいるように」と話している。	理念は、日々ケアを実践していく上で拠りどころとなる基本的な考え方であり、職員が共有してケアに取り組んでいけるような仕組み作りが期待される。又、さらなるチームケアの実践に向けて、ご家族や地域の方にも理念を知ってもらえるような取り組みも工夫してほしい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事がある際や、グループホームが主催の行事(バザー、避難訓練等)を行なう際は、地域の方々と話し合いながら交流を図っている。しかし、日常的なつながりまでは達していない。 (外部評価) 天気の良い日は散歩して近所の方とあいさつを交わしたり、時には事業所でできた野菜をおすそ分けすることもある。地域の敬老会や盆踊りに参加している。夏休みには、小学生のラジオ体操場所として事業所の敷地を提供しており、時には利用者も子供たちと一緒に体操をしている。引率の保護者が、自主的に庭の草引きをしてくれたこともあった。中学生の職場体験の折には、生徒は利用者と一緒に昼食用のカレーを作ったり、お祭りに配るお菓子の袋詰めをして過ごした。利用者は、自身の子供の頃のことや戦争の話をされたようだ。5月の「杜の里バザー」の際には、事業所内を解放し、掲示した利用者の暮らしの様子やイベント時の写真を見てもらった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近隣の方々の理解を得られるように勤めてはいるが、地域への貢献はできていない。地域ともっと密接に繋がれるようにしていくようにしていく必要がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議ではサービスの概要、利用者の近況報告、今後の目標、計画を報告している。そして地域の方々からの意見や提案を頂いている。頂いた提案等は、サービスに反映できるように努めている。	
			(外部評価)	
			会議には、民生委員や市・地域包括支援センターの担当者等が出席している。地域包括支援センターの方から、「家族の参加が少ないので、毎月の請求書送付時に会議案内を入れてみてはどうか」とアドバイスがあり、さっそく案内をして、家族の会議参加につながった。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			運営推進会議に参加していただいた際に、相談したり情報をいただいたりして協力関係を築くようにしている。	
			(外部評価)	
			地域包括支援センター担当者とは、グループホーム交流会時等に、日々のケアについて話したり、相談したりしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束についての知識、理解はあるが、知らず知らず拘束に繋がる言葉などが見られることもある。定期的に勉強会を開き、自分たちの対応を振り返っているが、もっと意識した対応が必要である。	
			(外部評価)	
			10月末に身体拘束についての内部研修を実施する予定がある。今回は、職員数名が担当になり、管理者と相談しながら資料を作り、発表する予定になっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	勉強会を開催し、日々のケアの中の振り返りを行っている。職員同士でも学んだことを忘れないように、お互い注意を払いながらケアに取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	制度についてミーティング時に学ぶ機会を設けている。それにより制度の必要性のある利用者に活用、援助している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	契約時は契約書に沿った説明、相談をしている。契約以前、契約後も、ご家族の不安や質問をいつでも話してもらえるような関係作りに努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	ケアプランの確認を頂く際、来荘可能なご家族には直接説明し、ご意見要望を伺っている。来荘の難しいご家族には文書でケアに対する意見、要望をいただけるようにして、運営に反映できるように取り組んでいる。	
			(外部評価)		
				ご家族から要望や意見を出してもらいやすいように、まずは、事業所から利用者の近況等を報告するよう取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティングなどの話し合いの場では個々の意見は出されているが、出された意見が話し合いの段階で止まっており、運営にうまく反映できていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>粉薬を飲みにくそうにしている利用者の様子や排泄用品が適当か等、職員は、利用者との日々のかかわりの中で気付いたことを話し合いながら、ケアに取り組んでいる。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>可能な限り個人の希望に応じた勤務体制を作っており、各自に負担のかけ過ぎない職場環境である。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティングの時間を活用し勉強会を開いている。それにより様々なことを学ぶことは出来ている。 外部への研修参加はできていない。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>グループホーム同士での相互研修の機会などあり。また、お互いのグループホームで活用できそうな意見の交換も行っておりサービスの質向上に取り組んでいる。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>サービス提供前に、本人様としっかり話し合い、生活の場が変わっても、不安なくそれまでと同じような暮らしが、可能な限り出来るように努めている。また、それまでの関係者の協力が得られ連携が取れるようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>サービス提供前に、ご家族とゆっくりと面談できる時間を持つことで、どのような不安があるのか、グループホームでの生活に求めることなど、忌憚のない意見のやり取りが出来るように努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居相談時をはじめとして、利用者、その家族が求めるサービス、買い物、リハビリ、通院などが適切に受けれるように相談し支援に努めている。また、随時求めるサービスに応じるように努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者のそれまで過ごしてきた生活を活かし、話を聞きつつ知恵を借りる等、お互いに助け合えるような関係を作れるように日々の支援に努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族来所時は、本人様と一緒に飲みながら過ごしていただいたり、介助を手伝っていただいたりし、本人、ご家族の良好な関係が続くよう職員と共に支援して頂いている。 ホームの行事の夕食やレクリエーションにも参加して頂いている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>長年の友人、知人が不定期ではあるが来荘して下さり、本人と関わっている。その際に本人の若い頃の話や嗜好などをお聞きし介護に活かしている。墓参りなどの時期にはご家族と連絡を取りながら墓参り等が出来るように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月、元職場の同僚の友人が迎えに来てくれて、夕食することを7年間続けている利用者がある。友人は、帰り際に来月迎えに来る日時を伝えて帰られるため、以前は、数日前からご本人に伝えて楽しみに待てるよう支援していたが、現在は、混乱する様子が見られるため、当日伝えて出かける準備の手伝いをしている。利用者のほとんどの方が母体医療機関へ週二回りリハビリに通っており、院内では、顔馴染みになった患者さんから「お元気ですか」「調子はどうですか」等と声をかけてもらう。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が自ら関わることは少ない。人との関わりの苦手な方もおられる為、間に職員が入る形でお互いに関わりが持てるようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も状況に応じて必要な相談や支援が出来る関係作りに努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 加齢による意思疎通の困難さは増えてきているが、それぞれのペースにあわせ思いを聞き出せるような支援を行なっている。また、日々の関わりの中で得た情報は職員間で共有しケアに活かせるようにしている。 (外部評価) 調査訪問日の昼食時、職員が「さん、今度外食するのですが、何か食べたいものはありますか?」と聞いている場面があった。利用者の方は、「かつ丼が食べたいな」と答えていた。介護記録は、利用者の生活の様子を記入する欄と、「願い・私が行ったこと・支援して欲しいこと」を記入する欄を設けており、会話内容や希望から利用者の意向や思いの把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の関わりの中で知りえた情報、ご家族からの情報など、利用者本人のなじみある暮らし方、生活環境の把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間シートを利用し一日の過ごし方等の把握に努めている。その日に不在だった職員も必ず目を通すようにし状況を把握するようにしている。不足があれば、申し送りノートに記入し活用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ミーティング時に職員同士で意見を出し合い、ケアプラン作成に役立てている。ご家族にも確認を取り意見や要望を反映し、必要があればケアプランの作り直しをしている。本人の思いが届くようなケアプランを作成しているが、本人に負担のかかりすぎないことにも留意している。</p> <p>(外部評価) 新たに、介護記録書式内に介護計画項目欄を設けて、日勤職員が達成状況をチェックする仕組みを作っている。記録に基づき毎月職員でモニタリングを行い、3ヶ月ごとの計画見直しにつなげている。利用者の中には、認知症の進行を遅らせたいと希望が出るような方もあり、ご家族と相談して日記を付けることを支援している事例がある。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 情報共有の不十分な点も見られるが、24時間シートや申し送りノートを活用し、正確にわかりやすく職員間の情報が共有できるように努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 個々の要望に可能な限りこたえられるようにしており、必要なときはご家族と相談、協力できるように努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域資源の把握は出来ているが、うまく活用できていない点も見られる。地域行事などには町内の方々の協力を得て、本人様が地域で豊かに暮らせるよう努力している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居前に通っていた病院に定期的に通院されている方もおられる。定期的な往診、医療連携等あり、状態に合わせ適切な医療が受けられるようにしている。また、家族、本人の希望、要望も大切にしている。	
			(外部評価) 母体病院は24時間体制で対応しており、事務所には緊急時連絡方法を掲示している。服薬支援時には、職員が2人でご本人の薬に間違いがないか確認していた。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週に1度の医療連携あり報告、相談は出来ている。日常生活の中で異常が発生した場合も、医師、看護師に報告、連絡し指示をもらえるようにしている。必要に応じ受診できるようにも支援している。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した際は、安心して早期の治癒が計れるよう、医療関係者と相談、連携を適宜行っており十分な配慮をしている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化、終末期に向けてのご家族との話し合いはもたれている。事業所、職員でできることを説明し話し合い方針を決めて、関係者と連携を取りながらチームとして支援できるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 看取り支援の希望については、入居時と看取りが必要になった時に確認している。1年前に看取りを支援した際には、看取り支援の経験がある職員がメインとなり、経験することが初めての職員に、状況に合わせたケア等を説明しながら支援した。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の応急手当、報告についての手順をまとめ全職員が把握できるようにしている。また、対応の訓練をミーティング時に行い実践に生かせるように図っている。実際に起こった際に冷静な対応が出来るように心がけている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署指導の下、避難訓練実施。防災マニュアルを作成しいつでも閲覧できるように、他のマニュアルファイルと同様にファイルに閉じている。	
			(外部評価) 9月の夜間の火災想定避難訓練時には、消防署から、「避難時の職員の声掛けが少ない」「誘導する際には、もっと声を張った方が良い」等と意見やアドバイスがあった。職員からは、実際の避難の際には、「思っているような丁寧な介助で避難することはできないかもしれない」「2階から1階への避難が不安」と課題が挙がった。事務所には、ヘルメットやロープ、担架等が準備されているが、職員全員が、常備されている避難用具については把握していない現状がある。	災害時に必要な物品については、避難訓練と併せて職員で把握できるよう取り組んでほしい。又、地域の方やご家族にも訓練に参加してもらおう等して、一緒に防災について考えてもらってはどうか。課題解決への取り組みをすすめ、利用者がさらに安心して暮らせる事業所環境を整備してほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人個人に合わせた声掛けを行い、それぞれの尊厳を損なわず、距離をとり過ぎないケアを行なっている。	
			(外部評価) できるだけご自分の力で更衣できるよう、職員は一度その場を離れ、少し経ってから様子を見に行くようにしている。脱衣場とトイレの入り口、洗面所が同じ場所のため、入浴時はカーテンを閉めて対応するようになっているが、時々閉め忘れることもある。管理者は、その場で注意を促す等している。ティッシュを取ろうとして手が届かない方に、他利用者が取ってあげるような場面が見られた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の意思を尊重し希望をかなえるような声掛け、自己決定が出来るような工夫を心がけている。特に日々の生活の中で知れた思いをご家族に伝えたり、相談したりし本人の希望がかなうように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個人個人のペースを大切にしながら、気持ちのよい生活を送ってもらえるように心がけているが、職員側の都合を押し付けてしまうこともある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣の際など好きな服や色合いなどを選んでもらえるよう声掛けを行なっている。ブラッシングの際もどのような髪型が良いかお聞きしながら行なっている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日常の会話の中で、食べたい物を聞きながら献立づくりに生かしている。調理できる方を中心に皮むきや下ごしらえ、味見を手伝って頂いている。 (外部評価) 昼食後、利用者は、ご自分で下膳したり、食器拭きする様子がみられた。又、テーブル拭きをお願いして、職員は、「さんありがとうございます」とお礼を言っていた。白米が苦手な方にはパン食にして、全体の食事量が増えたような事例がある。事業所の菜園で採れたナスや大根が食卓にのぼる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 24時間シートを使い食事量、水分量の把握に努めている。水分が不足しがちな方には好みの飲み物をお出ししたり、寒天を作って食べていただいたり工夫している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの際に口腔内の状態を確認しているが、自立している方々の支援ができていない事が多い。口をすすぐことの出来ない利用者にはスポンジブラシなどを使い清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 24時間シートや職員間での話し合いによって、個人個人の排便ペースやパターンを把握できるようにしている。二人介助などを活用しながら、可能な限りトイレでの排泄が出来るように心がけている。 (外部評価) おむつを常時使用した状態で入居に至った方について、職員の観察から「排泄前には動こうとする」等のサインがあることが分かり、トイレで排泄できるよう誘導する等、試しながら支援したケースがある。現在、昼間は、トイレで排泄ができるようになっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄状況に応じ、乳製品や繊維質の豊富な物を摂っていただいたり工夫を凝らしている。入浴時やトイレ時など腹部をマッサージし便秘の予防に努めている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調確認しながら、2,3日に1回は入浴して頂いている。入浴剤を使ったり、好みのお湯の温度を知ること、入浴に前向きになってもらえるように支援している。 (外部評価) 入浴に誘うと断る方には、無理強いせず、声かけするタイミング等を工夫して支援につなげるよう努力している。湯温等、個人の希望を把握して対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の表情など観察し、その時の体調、状態に合わせて居室で休んで頂いている。夜間不眠になりがちな方は、昼間のかかわり方を工夫し昼夜逆転にならないように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各利用者の薬の説明書のファイルを作成し、いつでも全員が見れる場所に保管してある。服薬による症状の変化、副作用の理解を職員全員が出来るように努めている。特に注意が必要な作用がある際は、申し送りノートなども活用している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の嗜好に合わせた楽しみを見つけ気分転換を図れるように努めている。役割については、食器拭きなどの家事を手伝ってもらっている。しかし、作業が出来る利用者には役割が偏ることが多い。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 可能な限り戸外へ出れるようにしているが、個々の希望に沿っての外出の頻度は少ない。外出の際はご家族の協力も得ながら、本人様が満足行くものにするように支援している。	
			(外部評価) 利用者の重度化に伴い、全体的に外出する機会が減っていると感じており、10月より事業所全体で、「月4回は、外出やレクリエーション等イベントを行う」ことを決め、ドライブや外食の機会を増やす予定がある。さらに、利用者主体の暮らしを支援するという視点からは、個別の希望も十分に採り入れた支援に工夫してほしい。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の利用者ではあるが、必要なときにお金をお渡しし使えるように支援している。職員の金銭所持の認識に関してはまだまだ理解が不足しているように見受けられる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族からの電話や手紙を取り次いだり、本人が連絡を取りたいときには連絡が取れるような家族との協力関係を気付いている。本人様が手紙を書いた際は、ポストへ投函している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとに壁に飾り付けをしたり、行事などで撮った思い出の写真を飾ったりして季節感のある居心地の良い空間を作っている。 空調や温度にも気をつけ、生活の妨げになるようなものは片付けるなどの配慮も行なっている。	
			(外部評価) テーブルの上には、庭のコスモスを活かしていた。利用者の中には、認知症の予防にと、新聞から気になる記事や出来事を選び、ホワイトボードに見出しやその内容を書く方がいる。居間には、小上がりの畳のスペースがあり、腰かけてテレビを見たり洗濯物たたみの際に利用している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間においても、ソファでテレビを見たり、リビングの机で新聞や、雑誌を読んだりと自由に過ごしていただいている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族との思い出の写真や孫などの写真を飾っている。本人様が愛用している家具などがある場合はそのまま使用して頂いている。	
			(外部評価) タンス、CDラジカセ、化粧品、アルバム等を持ち込み使用する方がいる。壁面には、ご家族の写真や、年賀状等を貼っていた。カレンダーに予定を書き込んでいる方もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の入り口、廊下、トイレなど必要な所に手すり、スロープを設置している。転倒リスクの高い利用者には、滑り止めマットやセンサーマットを使用し転倒防止に努めている。また、歩行の妨げになるものは極力置かないような工夫も行っている。	
			(外部評価)	